



おかし
イタズラ
すねん
ぐや

満ち潮
潮だまり
成人向

「わーん、わーん、わーん」

満ち潮
潮だまり

満ち潮
潮だまり

町から離れた森の奥
小さな家に
魔法使いが住んでいた

ハロウィンになると
庭のカボチャが踊りだし
森には優しいお菓子の
香りが広がった







祭りなら
カボチャたちに
任せておけ

ハロウィンってのは
休日じゃない



お菓子
くれよ

楽しいイベント
なんだよ!



お師匠の
ケチ!!

そんなこと
してないで
課題は
どうした?



うちの庭は
カボチャ団地に
なったんだぞ

動けやがって
ウザイって
ねえよ...

...うん



見ろ

お前が
無駄に
ランタンを
作るから...



まったく...
さっさと
戻って
勉強しろ!



まったく

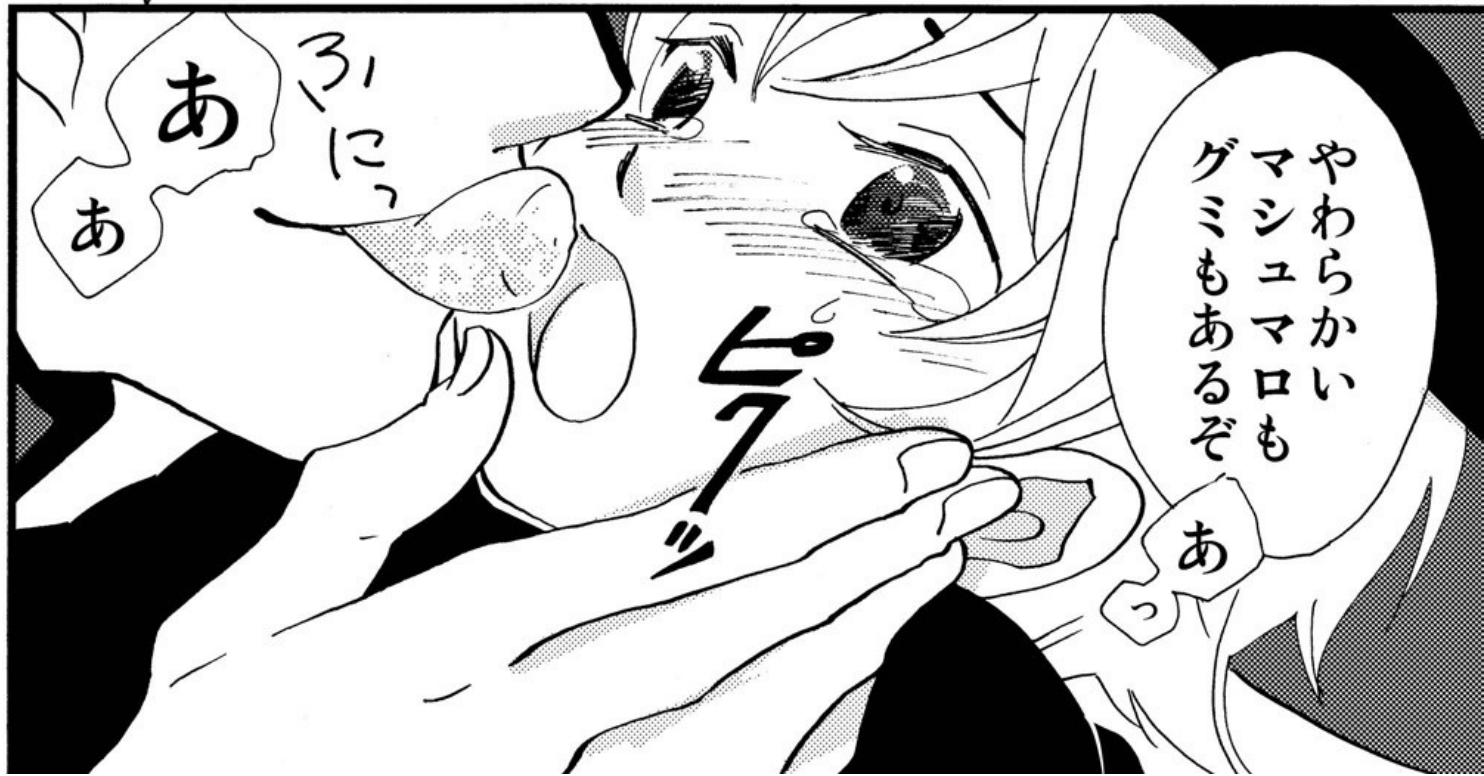


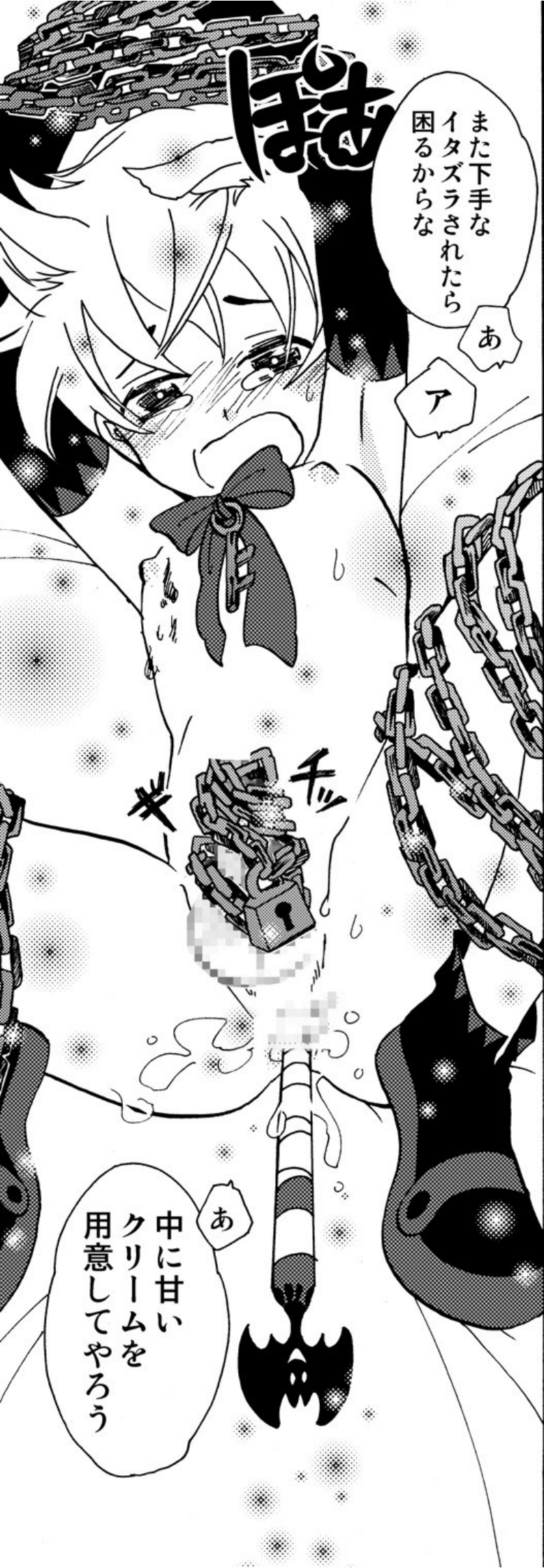
何してる!!

やべ...

余計なこと
ばっかり
するな!!







また下手な
イタズラされたら
困るからな

ぽっ

中に甘い
クリームを
用意してやろう



ああ
忘れていたな

大好物の
マドレーヌだ



ほら

ひう

こうばしく
アッ
焼けてるだろ



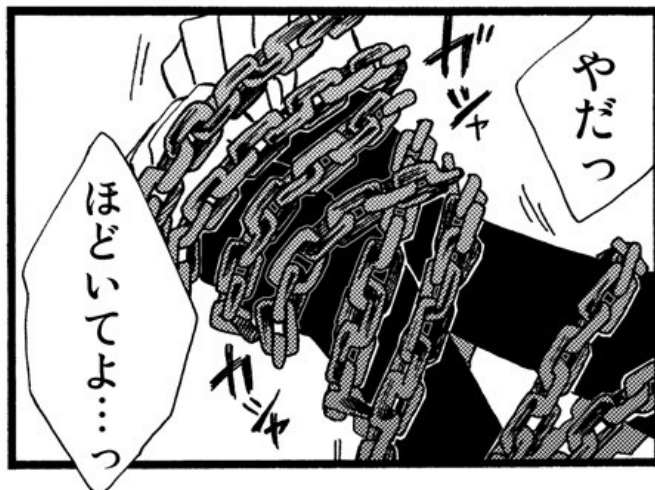
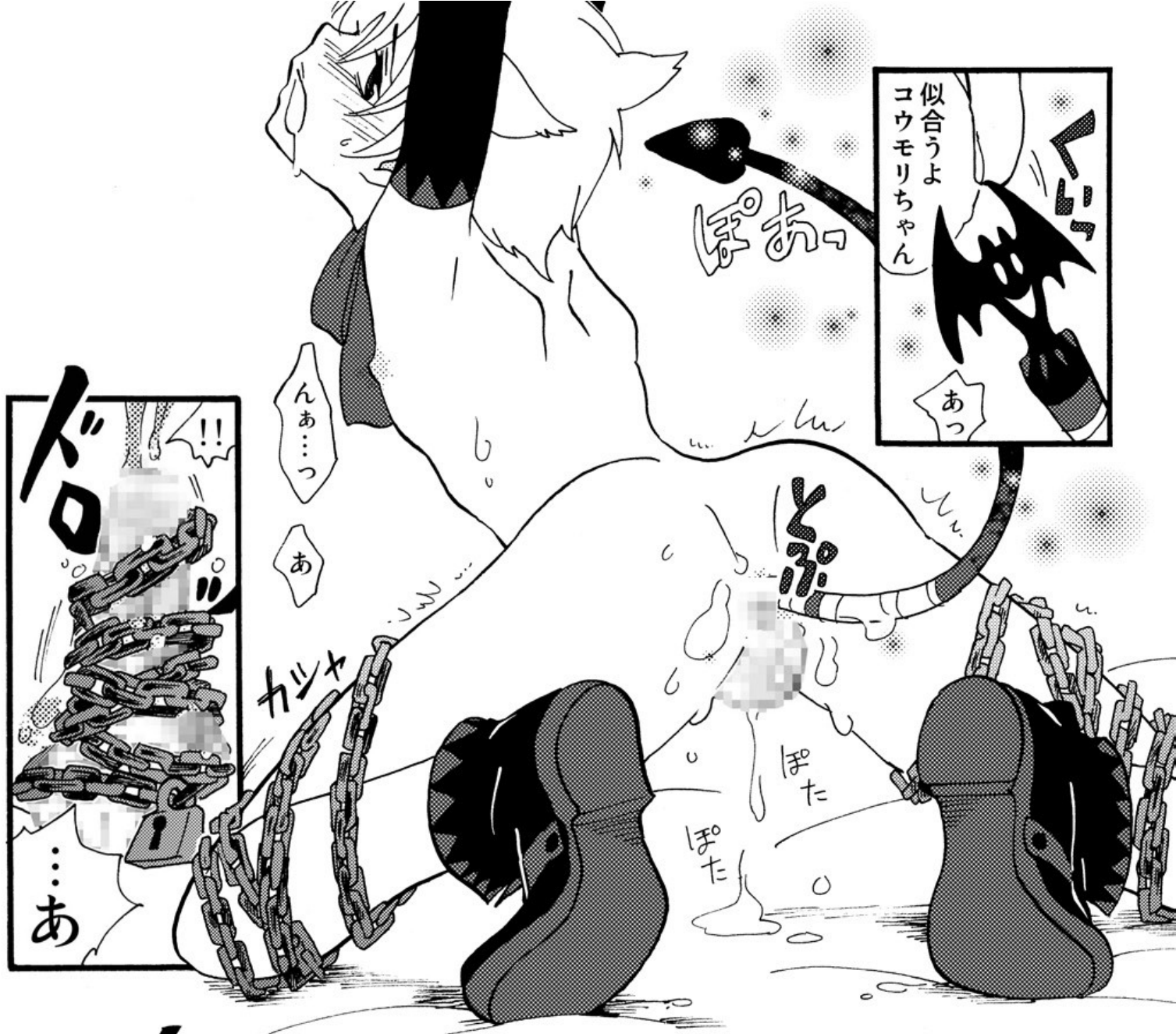
タルト?
メレンゲ?
アイスクリーム?

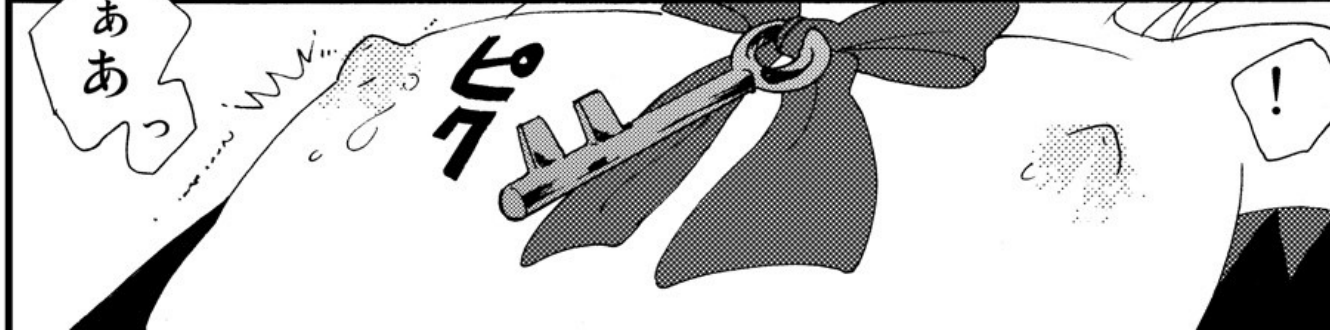
他にウィリーの
食べたいのは
なんだ?

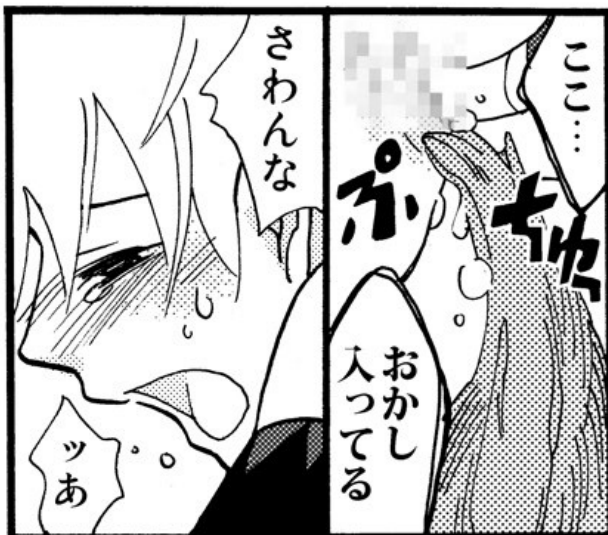
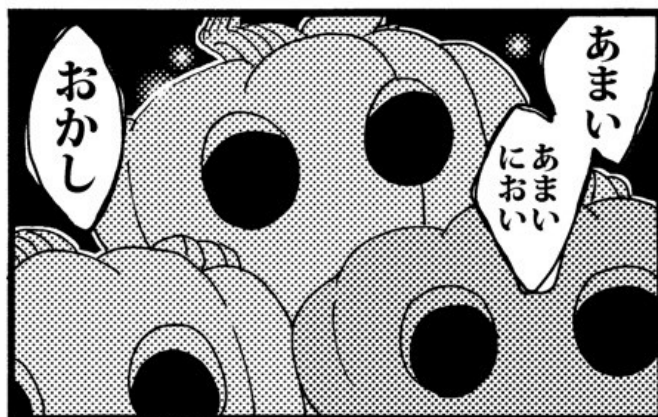
!

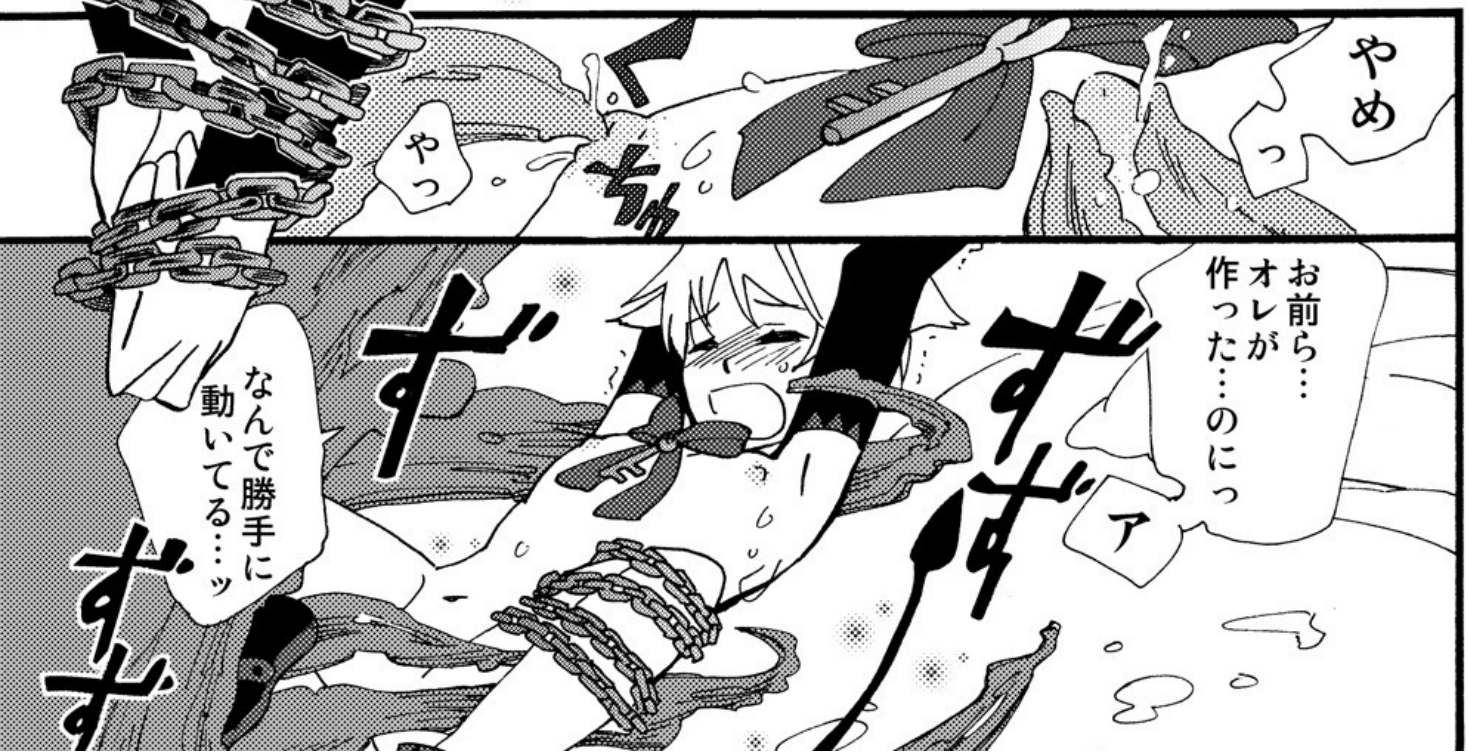
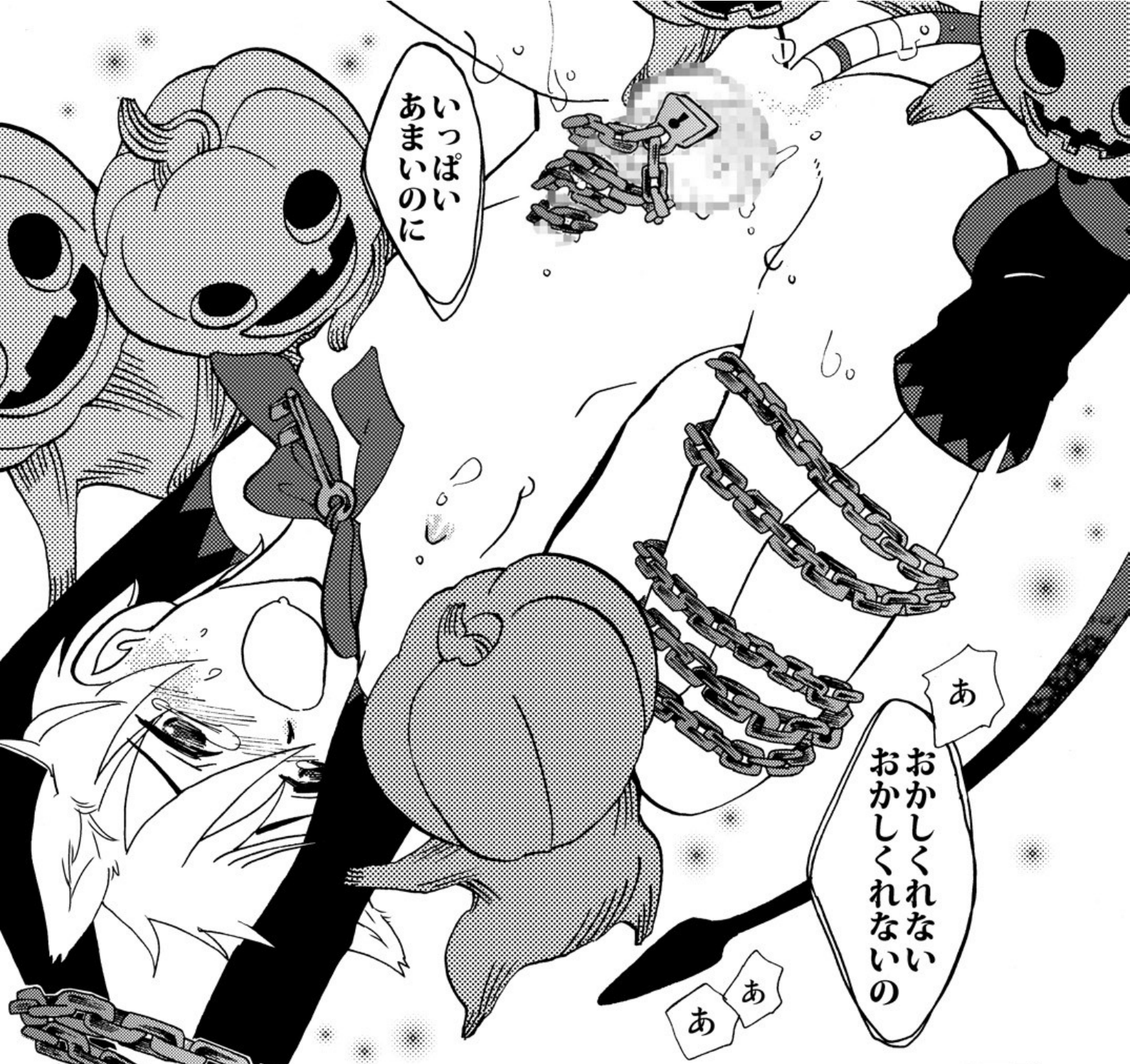
それ:
オレの杖

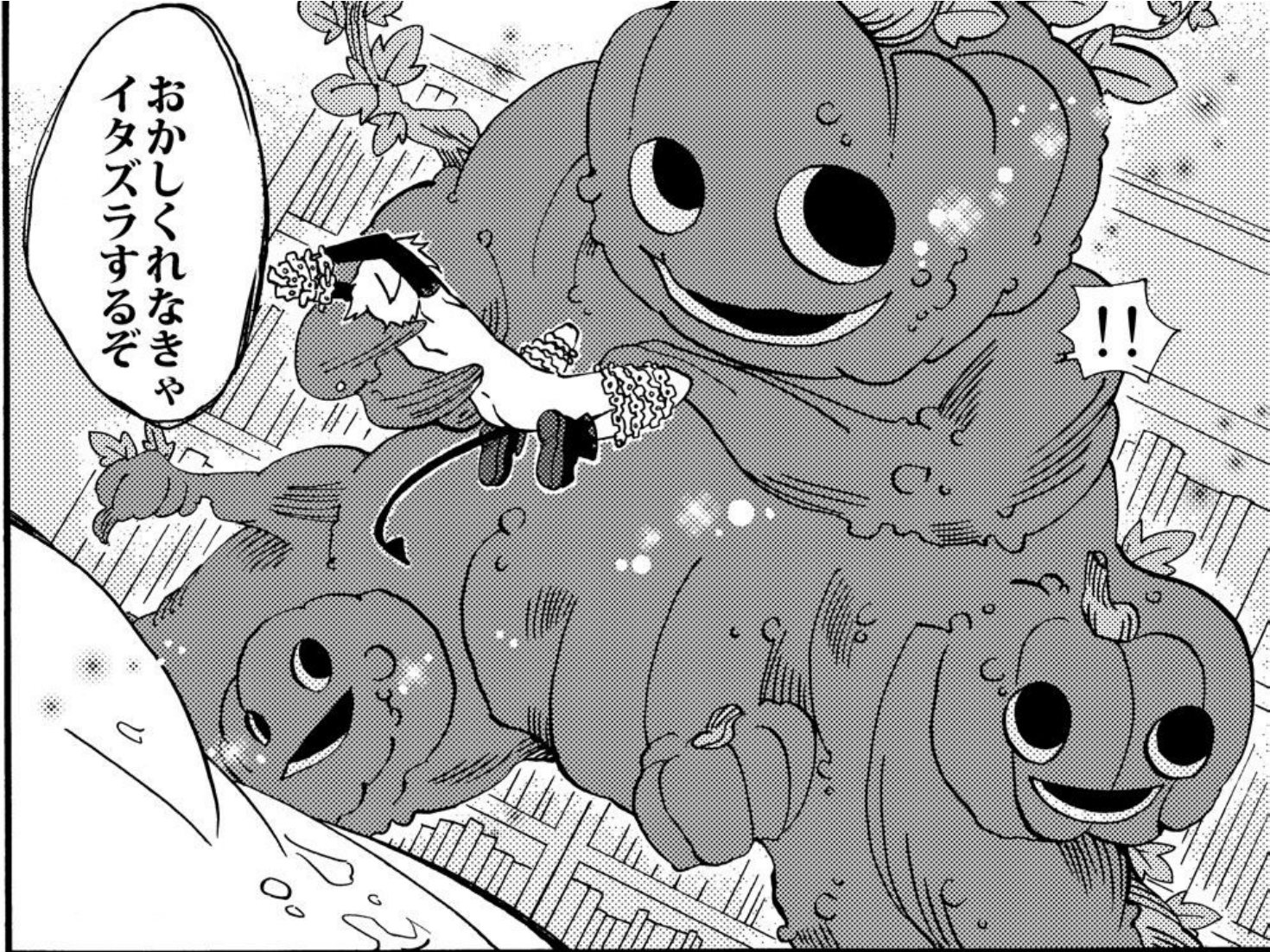
そうだお前
カスタードが好き
だったっけな

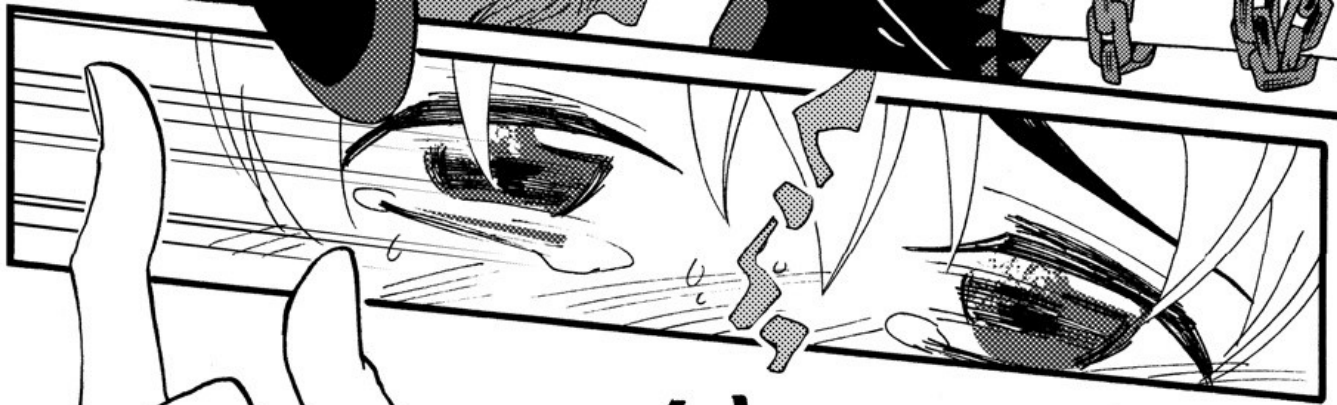






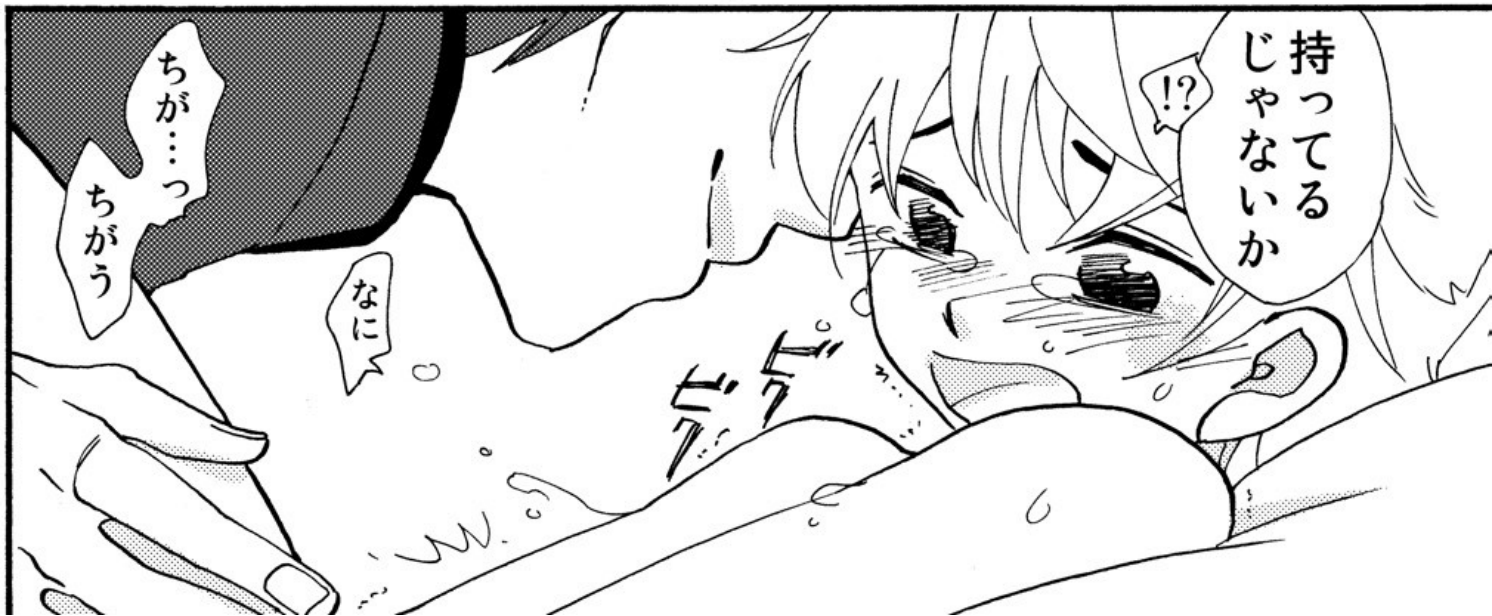


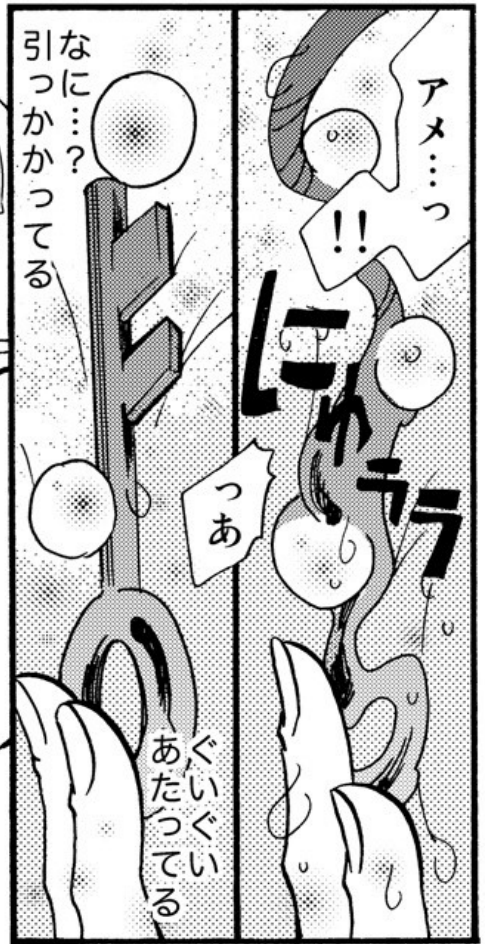




はちゃん、





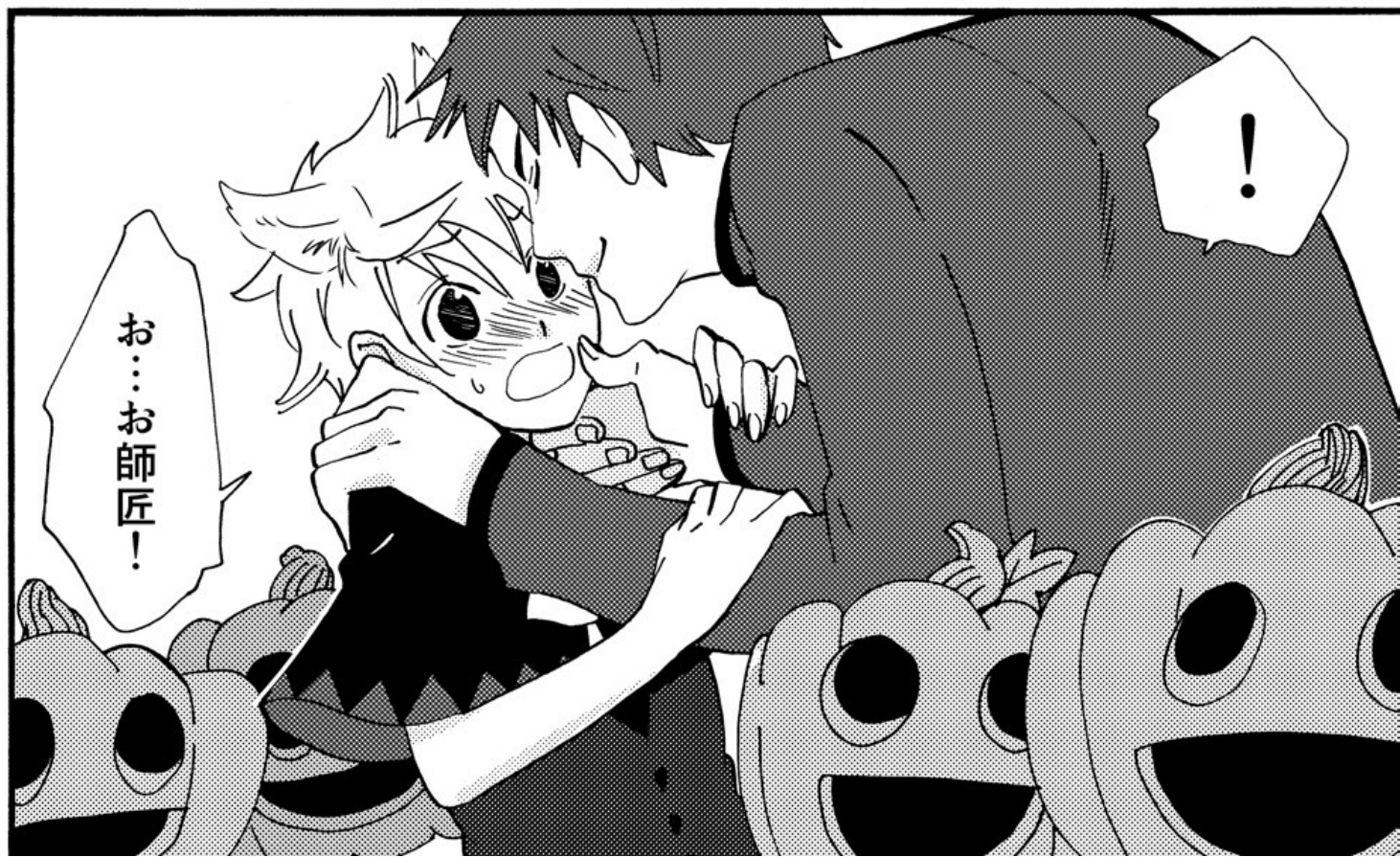
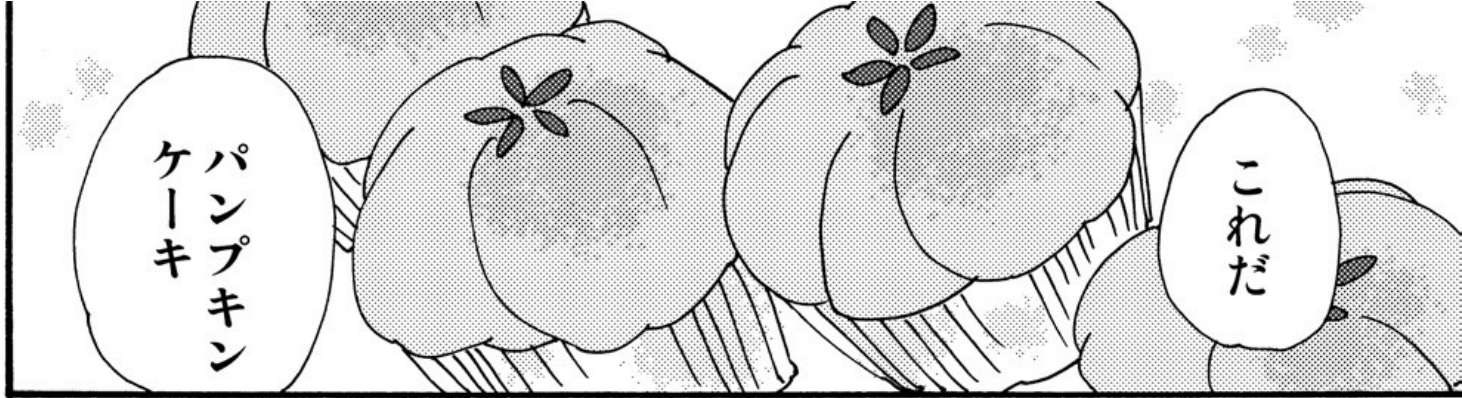


ああ

あっ

お師匠
何を
作ってたの？





ま
っ
た
く
困
っ
た
奴
だ



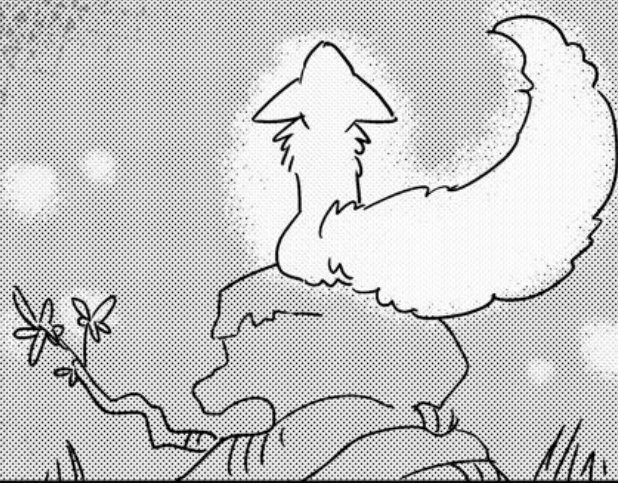
END



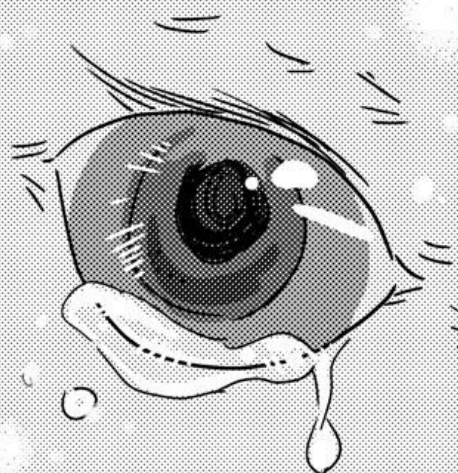
ちいさなキツネは
ひとりぼっちでした

おなかがへって
さみしくて
さむくって
ずっと泣いていました

ちいさいキツネは
ケガをして
それがいたくて
ずっと泣いていました



それは星の
こぼれそうな
キラキラした
よるでした





魔法使いと
おしゃべりしたい
あそんでほしい
かまってるほしい
とおもったキツネは

魔法使いと
おなじ「ひと」のかたち
になりました

人間は戦争を
していました

森を焼き
町を焼き
人を焼いて

長い間ずっと
殺し合いを
していました

国がかわり
時代がかわっても

敵を見つけて
大義を見つけて
ずっと殺し合いを
していました

戦いの上手な
魔法使い
王に褒められ
人々に賞賛され

こぼれるほど多くの
勲章を貰いました

魔法使いの黒いマントは
いつも赤に染まって
さらに黒く重い色に
なっています

ちいさなキツネが
いました

こんなに月が
キレイなのに

どうして空を
みないの？

こんな風に
きもちいいのに
どうして
笑わないの？



なんでも
知っている
はずの
魔法使いは

こたえられ
ませんでした

魔法使いは
戦争の中から
姿を消して
しまいました



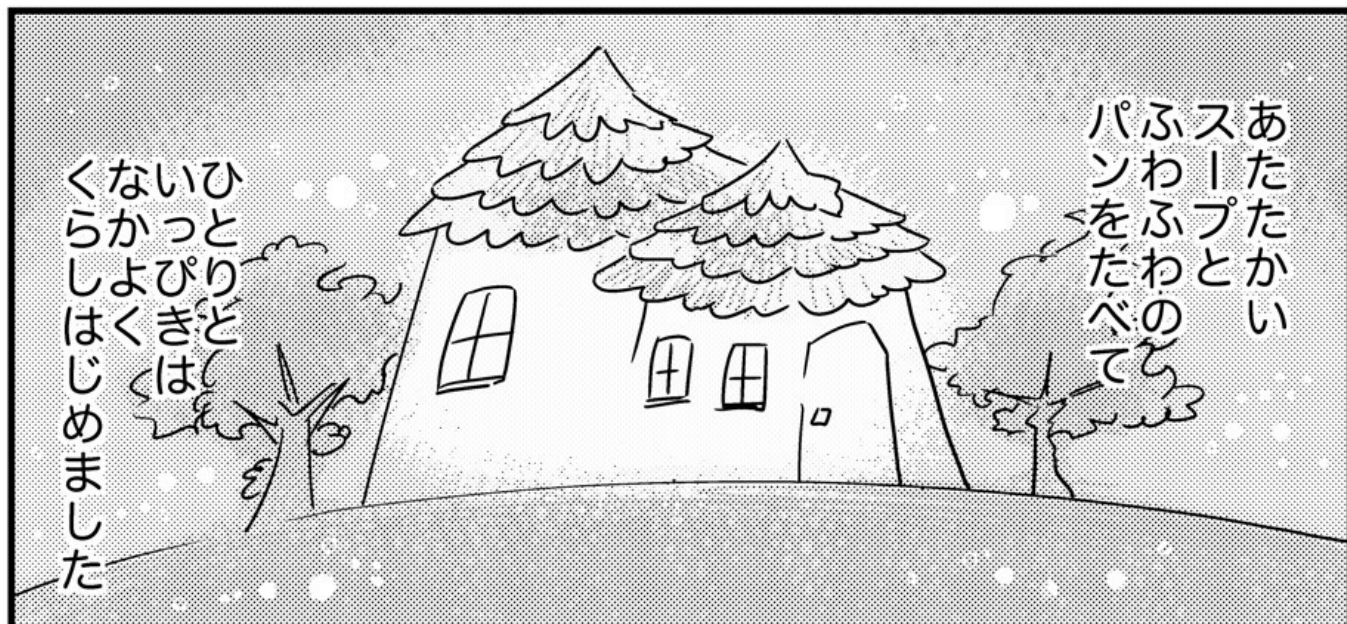
べたついた
黒をまとい
むせかえる
殺意を抱えて

ざらついた
夜ばかり見
きた魔法使
は知りませ
んでした

夜がこんなに

美しいのだと





魔法使いは
もったいない
なりました
わせに



Thanks



おそろしくなりました！

発行サークル
著者・発行責任者

満ち潮
潮だまり